

# 元首政期ローマ帝国西部の皇帝礼拝

—ガリアのアウグスターレースを手がかりに—

山本晴樹

—

ローマ皇帝礼拝に関しては、その一端として、重要な担い手であるアウグスターレースについても研究が積み重ねられており、とりわけR. デュトワ (Duthoy) が1970年代に精力的に一連の成果を公にした<sup>(1)</sup>。そこでは、一般に考えられているアウグスターレースの宗教的機能よりもむしろ、その社会的・経済的機能が重要視された。彼によれば、アウグスターレースという役職は解放奴隷の富裕層にとって自らの社会的認知を得るためのものであり、それに就任することによって彼らは社会的無名性から脱却した。そうして一年任期のアウグスターレースを経験したものは次第に一つの階層を形成し、遅くとも2世紀には帝国西部の都市において都市参事会員に次ぐ第二の地位を獲得することになる。しかし3世紀後半になると急速にその機能を失っていく。

このようなデュトワのアウグスターレース理解は、これまであまり注目されることの少なかったアウグスターレースという存在の重要性を認識させた。というもののアウグスターレースは元首政期にその成立・発展・衰退のサイクルを経験しており、まさしくこの時期特有の現象であり、それ故ローマ元首政の性格を特長づける重要な要素の一つと目されるようになったからである。ただデュトワは皇帝とアウグスターレースの直接的な関係については明確な像を提示したとはいいがたかった。したがって、あらためて両者の関係の究明が次の課題となっている。

本稿では筆者がこれまで取り組んできた属州ガリアのアウグスターレース<sup>(2)</sup>に即してアウグスターレースと皇帝の関係のみをみる。属州ガリアは帝国西部の他の地域と比べると、比較的早く皇帝礼拝が形成されたように思われ<sup>(3)</sup>、アウグスターレース関連の碑文も多く見いだされるからである<sup>(4)</sup>。ここでは、アウグスターレースが皇帝と関わりのある碑文をあらためて検討しなおすことによって、アウグスターレースと皇帝との関係の解明にひとつの筋道をつけてみたい。というのも1980年代末から、帝国西部における皇帝礼拝をあらためて研究してきたD. フィッシュウィック (Fichwick) はアウグスターレースの宗教的機能を再認識しており<sup>(5)</sup>、その点でアウグスターレースと皇帝とのつながりに関して再検討の必要が出てきたように思われるからである。

二

それでは、あらためて属州ガリアにおいてアウグスターレースが皇帝とつながりをもつ碑文を検討してみることにしたい。幸いこれらの碑文については既にデュトワが収集しており<sup>(6)</sup>、われわれはそれを参考にできる。以下はその関連碑文を、年代が確定できるものは時代順に、時期不明のものはその碑文の番号順に並べたものである。

- [ 1 ] REA 24 (1922), 253 (colonia Maritima=Martigues?, 40年)
- [ 2 ] CIL XII, 4341 (Narbo=Narbonne, 98年)
- [ 3 ] CIL XIII, 1751 (Lugdunum=Lyon, 160年)
- [ 4 ] CIL XIII, 6366 (Sumolocenna=Rottenburg, 225年)
- [ 5 ] CIL XIII, 4192 (Reinsporth, 時期不明)
- [ 6 ] CIL XIII, 4325 (Divodurum = Metz, 時期不明)
- [ 7 ] CIL XIII, 5026 (Lousonna=Lausanne, 時期不明)
- [ 8 ] CIL XIII, 5042 (Minnodunum=Moudon, 時期不明)
- [ 9 ] CIL XIII, 8499 (Divitia=Deutz, 時期不明)

これらの碑文をみると、その年代が判明しているものは、1世紀半ばから3世紀前半までの3世紀間にわたっている。またその発見場所に関していえば、大半が属州ガリア、なかでも内陸部のトレース・ガリアエが、さらに言えばゲルマニアとの境界地域が多くみられる。以下それぞれの碑文を個別的に検討してみよう。

[ 1 ] REA 24 (1922), 253 (colonia Maritima=Martigues?, 40年)

この碑文は二つ部分からなりたっており、一つ(a)はフランス南部ローヌ川河口近くで、他(b)はマルセイユ近郊で発見されている。(b)の碑文の年代は記載のコンスル暦からカリグラ帝の40年である<sup>(7)</sup>。

a. St.-Pierre-les-Martigues

TI AVGVSTO  
SACRVM  
SEX AELANIVS PISINVS  
D S P D

Ti. Augusto  
sacrum  
Sex. Aelanius Pisinus  
d(e) s(ua) p(ecunia) d(edit).

b. Carry-les-Rouet

CAESARI  
GERMANICO  
C.... COS III  
SEX AEL NIVS PISINVS  
SEVIR AVGVSTALIS  
D S D

Caesari  
Germanico

C.... cos. III  
 Sex. Ael(a)nius  
 sevir augustalis  
 d(e) s(ua) (p[ecunia] d(edita).

a. の碑文はティベリウス帝に対してであるが、b. の碑文はカリグラ帝に対してアウグスターレースの Sex. アエラニウス・ピシヌス (Sex. Aelanius Pisinus) <sup>(8)</sup> がカエサル・ゲルマニクス (カリグラ帝) に自己の費用で奉献を行っている。この場合、皇帝は後にみる健康 (salus) や名誉 (honos) という用語の媒介なしに、皇帝それ自身に対して直接奉献が行われており、ここからすればアウグスターレースと皇帝との心理的距離は比較的近いように思われる。

[2] CIL XII, 4341 (Narbo = Narbonne, 98年)

この碑文はフランス南部のローマ植民市ナルボ (現ナルボンヌ) で発見されている。碑文の年代は、トラヤヌス帝の治世第一年目の98年<sup>(9)</sup>である。

I M P

( ) AESARI · DIVI · NERVAE · F  
 NERVAE TRAIANO · AVG · GERM · PONT · MAX · TRIB · POT · COS II  
 Q · S///LIVS ///ANVS · IIIIII VIR · AVGVSTAL · DE · SVA · MEDIOCRITA  
 MENTO · FIERI · PONIQVE · IVSSIT

in parte aversa :

AD · VRNAM · POTE(tis?)

Imp(eratori)

(C)aesari divi Nervae f(ilio)

Nervae Traiano Aug(usto) Germ(anico) pont(ifico) m(aximo) trib(unicia) pot(estate) co(n)s(ul-ibus) II

Q. S(erv)ilius ...anus sevir augustal(is) de sua mediocrita(te)

(testa)mento fieri ponique iussit.

<裏面>

ad urnam pote(tis?)

ここでは、アウグスターレースである Q. セル [ウイ] リウス・．．． アーヌスが、トラヤヌス帝のために、帝の治世第一年目 (98年)、自己のつましい財産から遺言によって奉献することを命じている。この人物が奉献したものは明らかではないが、碑文の内容からして何らかの公共施設と思われる<sup>(10)</sup>。この碑文でもまたアウグスターレースが皇帝それ自身に直接的な表現をもって奉献を行っているがゆえに、アウグスターレースの皇帝に対する意識は非人格的なものではないように思われる。

[ 3 ] CIL XIII, 1751 (Lugdunum, 160年)

この石碑は現在リヨンのガロ・ローマ文明博物館に収蔵されているが、それに刻まれている碑文はタウロポリウム (後述) を表す図像とともに有名である。碑文年代はコンスル暦からして、アントニヌス・ピウス帝の末年の160年である。

TAVROBOLIO · MATRIS · D · M ID  
QVOD · FACTVM · EST · EX · IMPERIO · MATRIS · D  
DEVM  
PRO SALVTE · IMPERATORIS CAES · T · AELI ·  
HADRIANI · ANTONINI · AVG · PII P · P  
LIBERORVMQVE · EIVS  
ET · STATVS · COLONIAE · LVGVVDVN  
L · AEVILIVS · CARPVVS · Iiiii VIR · AVG · ITEM  
DEMDROPHORVS  
VIRE · EXCEPIT · ET · A VATICANO · TRANS  
TVLIT · ARA · ET · BVCRANIVM  
SVO INPENDIO CONSACRAVIT  
SA CERDOTE  
Q · SAMMIO · SECVNDO · AB · XV · VIRIS  
OCCABO · ET · CORONA · EXORNATO  
CVI · SANCTISSIMVS · ORDO · LVGVVDVNENS  
PERPETVITATEM · SACER DOTI · DECREVIT  
APP · ANNIO · ATILIO · BRADVA · T · CLOD · VIBIO  
VARO COS  
L D D D

in dextro latere  
CVIVS MESONYCTIVM  
FACTVM EST V ID DEC

Taurobolio Matiris d(eum) m(agnum) Id(eae)  
quod factum est ex imperio Matris d<sup>(11)</sup>  
deum  
pro salute imperatoris Caes(aris) T. Aeli  
Hadriani Antonini Aug(usti) Pii p(atri) p(atriciae)  
liberorumque eius  
et status coloniae Lugudun(i)  
L. Aemilius Carpus sevir aug(ustalis)item  
dendrophorus  
vires excepit et a vaticano trans-  
tulit ara et bucranium  
suo inpendio consecravit

sacerdote  
 Q. Sammio Secundo ab XV viris  
 occabo et corona exornato  
 cui sanctissimus ordo Lugudunens(is)  
 perpetuitatem sacerdoti decrevit.  
 App(io) Annio Atilio Bradua T. Clod(io) Vibio  
 Varo co(n)s(ulibus).  
 L(ocus) d(atus) d(ecreto) d(ecurionum).

<右側面>

cuius mesonyctium  
 factum est V Id(us) Dec(embres).

碑文によれば、L. アエミリウス・カルプスなるアウグスターレースにしてデンドロフォールス<sup>(12)</sup>はアントニヌス・ピウス帝及び彼の子どもたちの健康 (salus) のために、そしてローマ植民市ルグドゥヌムの地位 (status) のために、大地母神マグナ・マーテルの祭儀であるタウロポリウムを行っている<sup>(13)</sup>。ここでは、アウグスターレースはデンドロフォールスを兼ねながら、皇帝およびその家系と自己の都市のためにタウロポリウムという真夜中に雄牛の鮮血を浴びて行う東方宗教に色濃く影響された祭儀を行っている。このアウグスターレースは単なる社会的機能を帯びた役職ではなく、すぐれて宗教的・呪術的な機能を果たす役職であると言わなければならない。とすれば、この場合におけるアウグスターレースと皇帝の関係は、もはや人格的とはいえず、きわめて非人格的・超越的なものである可能性が高いように思われる。

[ 4 ] CIL XIII, 6366 (Sumelocenna=Rottenburg, 225年)

この碑文はドイツ南部のロッテンブルク (古代名スメロケンナ) で発見された。碑文の年代は記載されたコンスル暦から、セウエルス・アレキサンデル帝の225年である。

IN H D · D  
 M M..SSIVS  
 FORTVNATVS  
 Iiiii VIR · AVG  
 NEGOTIATOR  
 ARTI.. CRETA  
 ..AE N.. PAENVL  
 OMNI I..PEN  
 DIO SVO FECIT  
 .....DEXTRO COS

In h(onorem) d(omus) d(ivinae)  
 M. M(e)ssius

Fortunatus  
sevir aug(ustalis)  
negotiator  
arti(s) creta-  
(ri)ae n(egotiator) paenul(ae)  
omni i(n)pen  
dio suo fecit.  
(Fusco II et) Dextr(o) co(n)s(ulibus).

碑文では、石灰石 (cretarius) および外套 (paenula) の卸売商人であったアウグスターレースの M. (メ) ッシウス・フォルトナートゥスが神なる皇帝家系の名誉に対して、奉獻をすべて自己の費用で行っている。ここでは奉獻の内容が明かではないが、このアウグスターレースは当時のセウエルス・アレキサンデルという特定の皇帝ではなく、彼の家系に対して、しかも彼ら自身に対して直接的ではなく、その名誉に対して奉獻をおこなっている。従ってここではアウグスターレースと皇帝との関係は、直接的・人格的なものではなくなっている。

[ 5 ] CIL XIII, 4192<sup>(14)</sup> (Reinsport, 時期不明)

この碑文はトレウエリー族の地、現在のトリアー近郊の地 (Reinsporth) で発見された。碑文の年代は不明である。

IN · H · D · D · DEO ·  
MERCVRIO ET · RO  
SMERTE DOCCI  
APROSSVS · ET · AC  
CEPTVS · IiiiiI VI  
RIAVGVSTAL  
V · S · L · M ·

In h(onorem) d(omus) d(ivinae) deo  
Mercurio et Ro-  
smert(a)e Docci  
Aprossus et Ac-  
ceptus sevi-  
ri augustal(es)  
v(otum) s(olverunt) l(ibens) m(erito).

碑文では、二人のアウグスターレース Doccius Aprossus<sup>(15)</sup> と Doccius Acceptus が神なる皇帝家系の名誉に対して、メルクリウスとロスマルタ<sup>(16)</sup> というこの土地で信仰されている神々へ誓願を行っている。ここでは皇帝家系への礼拝が属州で信仰されている神々の礼拝に先行して碑文に刻まれており、それ故アウグスターレースにとって前者が後者に対して優位にあるということであろう。

## [ 6 ] CIL XIII, 4325 (Divodurum = Metz, 時期不明)

この碑文はフランス・ロレーヌ地方の都市メッツで発見されている。碑文の年代は不明である。

...ONOREM · DOMV...  
 ...THOVNV · SEX · MASSIVS · GEN  
 ...LIANVS · C · CELSIVS · MATTOS  
 ...GVSTALES · AQVAM · AB · ORIGIN..  
 ...NT · ET · NYMPHEVM · CVM SV...  
 ...ROI?..

.....

In honorem domu(s) divinae<sup>(17)</sup>  
 (Cara)thonus Sex. Massius Gen...  
 ...lianus C. Celsius Mattos  
 (seviri) augustales aquam ab origin(e)  
 (induxerunt) et nymphaeum cum suis ornamentis  
 ...roi?.....

.....

碑文では、アウグスターレースである(カラ)トウヌス、C.マッシウス・ゲン...、...リアーヌス、C.ケルシウス・マツスの4人<sup>(18)</sup>が、皇帝家系の名誉に対して、水源(origo)から水を引き、その装飾とともにニンファエウム(泉)を奉獻している。これはアウグスターレースが個人としてではなく、一つの団体として皇帝家系のために公共施設を建造している例である。建てられたものから判断して、多大の費用を要するものであり、アウグスターレースの財力を予想させる。ここでは他の碑文のごとくアウグスターレースが何らかの神々へ礼拝を同時に行うことなく、皇帝礼拝を行うという姿が現れている。

## [ 7 ] CIL XIII, 5026 (Lousonna = Lausanne, 時期不明)

この碑文はスイスのローザンヌ(古代名ラウソンナ)で発見された。碑文の年代は不明である。

SOLI · GENIO · LVNAE  
 SACRVM · EX · VOTO  
 PRO SALVTE AVGVS  
 TORVM · P · CLOD · CORN  
 PRIMVS CVRATOR · VIKA  
 NOR · LOVSONNENSIVM · II  
 IiiiiI · VIR · AVGVSTAL · C · C · R  
 CONVENTVS · HEL · D · S · D ·

Soli genio Lunae

sacrum ex voto  
pro salute Augus-  
torum P. Clod(ius) Corn(elia tribu)  
Primus curator vika-  
nor(um) Lousonnensium II  
sevir augustal(is) c(urator) c(ivium) R(omanorum)  
conventus Hel(vetiorum) d(e) s(uo) d(edit).

碑文では、アウグスターレースの P. クローディウス・プリームスが皇帝達 (Augusti) の健康 (salus) のために、太陽 (Sol)、ゲニウス (Genius)、月 (Luna) へ<sup>(19)</sup>、誓願によって祭儀を行い、自己の費用で奉獻を行っている。この人物はアウグスターレースの外に、ラウソンナ地区住民 (vikani Lausonnenses) の財務管理官 (curator) を二度、それにヘルウェティイ裁判管区在住ローマ市民 (cives Romani conventus Helvetiorum) の財務管理官を務めた。ここでは奉獻の内容は明らかではないが、一人のアウグスターレースが皇帝達およびローマの神々とその土地の神々に対して、その属州に住む住民およびローマ市民のために礼拝を行っている。碑文の語順からして、このアウグスターレースにとって、神々への礼拝が皇帝礼拝に優先しているように思われる。

[ 8 ] CIL XIII, 5042 (Minnodunum=Moudon, 時期不明)

この碑文はスイスのムドン (古代名ミンノドゥヌム) で発見された。碑文年代は不明である。

PRO SALVTE DOMVS DIVIN  
I · O · M · IVNON REGIN  
ARAM Q · AEL · AVNVS Iiiii AVG  
DE SVO ITEM DONAVIT VICAN  
MINNODVNENS X DCCL · EX  
QVORVM VSSVR · GYMNASIVM INDE · RCI · TEMPOR  
PER TRIDVM EISDEM VICAN · DEDIT IN AEV M  
QVOD SI IN ALIOS VSSVS  
TRANSFERR VOLVERINT  
HANC · PECVN · INCOL · COL · AVEN  
TICENSIVM · DARI VOLO ·  
L · D · D · V · M

Pro salute domus divin(ae)  
I(ovi) O(ptimo) M(aximo) Iunon(i) Regin(ae)  
aram Q. Ael(ius) Aunus se(vir) Aug(ustalis)  
de suo. Item donavit vican(is)  
Minnodunes(ium) (denarios septingenti quinquaginta) ex  
quorum ussur(is) gymnasium inde rci? <sup>(20)</sup>tempor(e)  
per tridu(u)m eiusdem vican(is) dedit in aev(u)m.  
Quod si in alios ussus

transferr(e) voluverint,  
 Hanc pecun(iam) incol(is) col(oniae) Aven-  
 ticensium dari volo.  
 L(ocus) d(atu)s d(ecreto) v(icanorum) M(innodunensium).

碑文では、アウグスターレースの Q. アエリウス・アウヌスが神なる皇帝家系の健康のために、至高至善のユピテルと女王ユーノーに対して、自らの費用で祭壇を奉献している。そうしてこの人物の所属共同体と思われるミンノドゥヌム地区の住民へ750デナリウスを付与し、その利子で競技 (gymnasium) を催し、そうして解読不能のため明らかではないが、何らかの祭儀を3日間恒久的に行うことを指示している<sup>(21)</sup>。ここでは碑文の語順として皇帝家系への礼拝がローマの主神の礼拝に先行して置かれてあり、それ故、従来の神々の信仰より皇帝への礼拝が、しかも皇帝家系に対するそれが優位に立っているかのような様相がうかがえる。

[ 9 ] CIL XIII, 8499 (Divitia=Deutz, 時期不明)

この碑文はケルンのライン川対岸にある地区 (Deutz) で発見された。碑文年代は不明である。

IN · H · D · D · DEAE  
 NEHALENNIAE  
 M · SATVRNINVS  
 EVPVLVS IIIII VIR  
 AVG PRO SE ET  
 SVIS V S L M

In h(onorem) d(omus) d(ivinae) deae  
 Nehalenniae  
 M. Saturninus  
 Eupulus sevir  
 aug(ustalis) pro se et  
 suis v(otum) s(olvit) l(ibens) m(erito).

碑文では、M. サトゥルニ [ニ] ウス・エウプルス<sup>(22)</sup>というアウグスターレースが神なる皇帝家系の名誉に対して、そしてこの土地の交易の守り神ネハレンニア<sup>(23)</sup>へ、そして自己と自己の一族のために、誓願を行っている。ここではアウグスターレースにとって皇帝家系への礼拝が土着の神への礼拝に優先している。

### 三

これまでみてきたところによれば、ガリアにおいてアウグスターレースと皇帝との関係は時代とともに変転してきたように思われる。たとえば、1世紀の碑文([1], [2])においてはアウグスターレースは皇帝個人に対して直接奉献をおこなっており、皇帝礼拝にはいわば人間的な側面が観察される。しかし2世紀の碑文([3])になると、神への礼拝と皇帝への礼拝が結び付けられるようになり、その際、神への礼拝が皇帝への礼拝に対して優位にたっているように思われ

る。そしてアウグスターレースの皇帝への礼拝はもはや皇帝個人という具体的な対象ではなく皇帝の健康 (salus) というやや抽象的な対象になり、皇帝とアウグスターレースの距離は次第に大きくなっていく。そうして3世紀の碑文 ([4]) になると皇帝礼拝の対象は神なる皇帝家系 (domus divinae) という優れて宗教的な表現をともなったものになった。

碑文年代が不明なものについても、同じ様な傾向がみられる。例えば[7]の碑文ではアウグスターレースによるローマの神々への礼拝が皇帝礼拝に優先しており、逆に[8], [9]の碑文では皇帝礼拝がローマの神々あるいは土着の神々の礼拝に優先している。それ故正確な年代は不明であるが、年代の判明している碑文の事例から判断すれば、前者の碑文の方が後者の碑文よりおそらく時代的に新しいであろう。そうして碑文[6]のように神々への礼拝をともなわない神なる皇帝家系への礼拝はおそらく3世紀の最終段階であるように推測される。またこれらの碑文年代の不明なものは大半がガリアとゲルマニアとの境界地域で発見されており、このような辺境地域においておそらくアウグスターレースによる皇帝礼拝は土着の神々への礼拝との相互作用においてその機能の深化をおこすようになったと考えられる。

このように、属州ガリアにおけるアウグスターレースと皇帝とのつながりは、時代が進展していくうちに、個人的・直接的・人間的なものから、集団的・間接的・抽象的なもの、言い替えれば宗教的・超越的なものになっていったように思われる。したがってアウグスターレースの機能として宗教的な側面もやはり厳然として存続しており、この側面を過小評価することは、アウグスターレースの実態を見誤ることになると思われる。

## 註

- (1) R. デュトワの研究は以下のとおりである。Duthoy, R., Notes onomastiques sur augustales, dans *AC* 39 (1970) (Duthoy (1970) と略), p.88-98; Id., La fonction sociale de l'Augustalité, dans *Epigraphia* 34 (1974) (Duthoy (1974) と略)p.134-154; Id., Recherches sur la répartition géographiques et chronologiques des termes sevir augustalis, augustalis et sevir dans l'Empire romain, dans *Epigraphische Studien* Bd.11, Köln-Bonn1976(Duthoy(1976)と略), p. 143-214; Id., Les Augustales, dans *ANRW* II-16 (1978) (Duthoy (1978) と略), p. 1254-1309.
- (2) 拙稿「ローマ帝政期ナルボネンシスの都市とアウグスターレース——ナルボとネマウススを中心に——」『史学論叢』(別府大学史学研究会)第26号(1995年)1-14頁; 「ローマ帝政期ルグドゥムスのアウグスターレース」『西洋史学論集』(九州西洋史学会)第34号(1996年)99-106頁。
- (3) Cf. Kneissl, P., Entstehung und Bedeutung der Augustalität, dans *Chiron* X (1980), p.291-326.
- (4) Cf. Duthoy (1976), pp.181-185.
- (5) Fishwick, D., *The Imperial Cult in the Latin West*, II vols, Leiden, New York, Kopenhagen, Köln, 1987-1992, 特に II, 1, p. 609-616.
- (6) Duthoy (1978), p. 1297ff.
- (7) D. キーナスト (Kienast) によれば、同僚を欠くコンスル就任は40年1月1日から13日の間ということである。Cf. Kienast, D., *Römische Kaisertabelle*, Darmstadt 1996, S.86.
- (8) C. ジュリアン (Jullian) によれば、この人物はおそらくアルル出身で, colonia Maritima の地できわめて重要な人物であった。Cf. Jullian, C., Chronique gallo-romaine, dans *REA* 24 (1922), p.253.
- (9) 98年の時点ではトラヤヌスはまだローマに帰還しておらず、属州の上ゲルマニアからローマへの途中であった。Cf. art.Trajan, in *Oxford Classical Dictionary*, p.1088.
- (10) M. ゲロー (Gayraud) は泉を想定している。Cf. Gayraud, M., *Narbonne Antique des origines à la fin du IIIe siècle*, Paris 1981, p.370.

- (11) 誤記と思われる。Cf. Hirschfeld, O.(ed.), CIL XIII, pars. I, fasc. I, p. 266.
- (12) これは大地母神マグナ・マーテルの神官である。
- (13) 具体的には、タウロポリウムから力(vires)を引きだし、自己の費用でローマのウァティカースス丘から祭壇と牛頭の像(bucranium)を移してきている。Cf. Turcan, R., Les religions orientales en Gaule narbonnaise et dans la vallée du Rhone, dans ANRW II, 18, 1 (1986), p. 456-518, 特に p. 489-495.
- (14) デュトワは CIL XIII, 4193を挙げているが、明らかにこれは CIL XIII, 4192の誤りである。
- (15) 彼は恐らく、CIL XIII, 4152で、妻 Saturnina とともに、息子 Apros(s)ius Ursicius によって墓碑を奉獻されているアウグスターレースの Arossus と同一人物であろう。
- (16) Cf. art. Rosmerta in *Kleine Pauly*, Bd. 4, col. 1460.
- (17) 『ラテン碑文集成』第13巻の編者ヒルシュフェルト(Hirschfeld)の解釈では Augustae としているが、ここは Duthoy の解釈のごとく divinae であろう。Cf. Hirschfeld, O.(ed.), CIL XIII, pars I, fasc. I, p. 669; Duthoy (1978), p. 1298 n. 360.
- (18) 本来アウグスターレースは6名で構成されるが、ここでは4人の名前しか挙がっていない。
- (19) デュトワはここを Sol, genius Lunae(太陽、月のゲニウス)と解釈している。Cf. Duthoy (1978), p. 1298 n. 359.
- (20) ここの解読は不明である。Cf. Zangemeister, C.(ed.), CIL XIII, pars. II, fasc. I, p. 15.
- (21) 碑文では更に、もし資金運用が他に移される場合には、ローマ植民市アウエンティクム(Aventicum)の住民に与えられることをも指示している。しかし、Q. アエリウス・アウヌスがアウエンティクムといかなる関係にあるのかはここでは明らかにしえない。
- (22) Honos(名誉)と Favor(善意)に奉獻している Saturnin[i]us Lupulus なる者の碑文が Deutz に隣接する Köln で発見されているが(CIL XIII, 8189)、おそらくエウプルス of なんらかの近親者と思われる。
- (23) Cf. art. Nehalennia in *Kleine Pauly*, Bd. 4, col. 38. アウグスターレースではないが同じくこのネハレンニアに誓願をおこなっているものに M. Secunnd(...) Silvanus なる者がいる(CIL XIII, 8793)。彼は碑文によればブリタンニアの石灰石を扱う商人であった。